

花菖蒲の水盤作り (その二)

鳥取県琴縹町 山脇 信正

1 はじめに

会報32号に「花菖蒲の水盤作り」を掲載して五年が経過した。今回は、この間に新しく試みたこと、水盤作りの苗の育て方等についてまとめた。

この栽培は、「盆養作り」の大先輩の小林昇氏に師事を受け



「千歳」の水盤作り

ている。鉢の代わりに水盤を使用した栽培である。敢えて水盤を使用したのは、厚さ1cm余りの水盤の持つ独特の味わいが群生する花菖蒲とよく合うと考えたからである。

当初、水盤では水が、底から抜けないことにより病気の発生を心配したが、水を掛ける時やや多めに掛けて水を水盤の縁からオーバーフローさせることで克服した。

盆養作り、水盤作りで一番苦労することは苗の問題である。6月に花が終わった後、株分けする際に小さめの株を選んで植えるのが普通である。一鉢（水盤）に植え付ける苗は最低でも5本〜7本、大きい鉢（水盤）になると15本〜17本位必要である。同一品種の苗を揃えるのに大変苦労する。また、株分けした苗を直接、鉢（水盤）に植え付けた場合、活着が極めて悪い。そこで、ポットで苗を育てて本植をするようにした。

その場合の利点として、次の3点が考えられる。

- ①ポット苗を本植えすれば確実に活着する。
- ②ポット苗は真夏を避けて本植を8月下旬〜9月にかけて出来る。
- ③本植後、株が枯れた（欠けた）場合の補植が随時出来る。

2 ポット苗の育て方

私の持論として「花菖蒲の草丈と花の大きさは土の量に比例する。」と考えている。

すなわち、植え付けるポット（鉢）の土の量が少ないほど草丈は伸びない。また、花の大きさも小さくなる。従って、苗作りには、出来るだけ小さいポットを使用する。

植え土は粘り気のある黒ぼく土（火山灰土）を使用している。黒ぼく土は、本植えの時ポットに水を含ませると粘り気が出て水盤に密着しとても植え易く安定する。

次の2つの方法で苗を育成している。

（その一）「3月始めの新芽を使う場合」

①植え付け時期

新芽の出始める3月始め

②写真による仕様

（写真1）3月芽出ちの多いものを選ぶ



（写真2）花芽をを摘み取る





(写真4) 黒ぼく土を使用して植える



(写真3) 1本1本に株分けする



(写真6) 発砲スチロールの箱に水を張り浸ける



(写真5) 名札を付ける



(写真2) 花茎を切り取り、葉を10 cm位に切る



(その二) 「花が終わった水盤作りの株から作る場合」
 ① 植え付け時期
 6月下旬花が終わった直後
 ② 写真による仕様
 (写真1) 花終わった鉢の状態



(写真4) 生育中のポット苗



(写真3) 植え付け前の株

3 水盤作りの根の張り方

次の写真は、水盤作りの根の張り具合が良く分かる写真だと思ふ。鉢底に穴が開いている盆養作りと根の張り方が全く違って

この根の状態が水盤作りで心配される、根から分泌される老廃物を水をかけた時、鉢のふちから流されやすくしていると思ふ。

鉢の場合は鉢底の穴から流される。水盤作りでは老廃物が流されないために病気が出やすいと言われているが、私の経験で



水盤作りの根張りの状

は鉢植えの場合と全く変わらな

4 水盤作り（盆養作り）に適した品種

品種は、特に選ばないが花容の大きい肥後系よりも、草丈が低く花容が小さめの長井系や野生種が適している。

出羽の里、長井薄紅、桜小町、琴浦桜、爪紅、村祭、茶の湯、駒繫、翠映、北野天使等に人気がある。

5 終わりに

この栽培法の最大の魅力は、盆養作りの大先輩小林昇氏が会報25号で述べておられるように、「一握りの土で群生した花菖蒲の風情を居ながらにして味わうことが出来る」ことである。

一度育て方をマスターすれば、露地植えや鉢作りより労力も少なく場所も余り要しない。土の量も少なくて済み経費も安くあがる。

花菖蒲の開花は、一般的に露地植え、次ぎに普通の鉢植え、

最後に水盤作り（盆養作り）の順になる。また、一鉢に植える株が多いため普通の鉢植えより長期間花を鑑賞することが出来る

ことも大きな魅力である。この栽培法は、今後、益々人気が出るものと思ふ。



「出羽の里」の水盤作り